

九州がんセンター血液内科にて

特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、多発性骨髄腫、急性白血病、悪性リンパ腫と診断された患者さんおよびそのご家族の皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問い合わせ先までお申し出下さい。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	血液疾患におけるMAIT細胞の寄与とその機能探索			
② 実施予定期間	承認 から 2025年 3月 31日			
③ 対象患者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、多発性骨髄腫、急性白血病、悪性リンパ腫と診断され、末梢血・骨髄細胞/上清が保管されている患者さん ・ T細胞リンパ腫と診断され、凍結組織検体もしくはパラフィン包埋ブロックが保管されている患者さん 			
④ 対象期間	2010年4月 から 2020年9月			
⑤ 研究機関の名称	九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学分野 九州がんセンター 血液内科 飯塚病院 血液内科			
⑥ 対象診療科	血液内科			
⑦ 研究代表者	氏名	小川佳宏	所属	九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学分野
⑧ 使用する試料・情報等	試料：診療目的で採取された末梢血・骨髄細胞/上清、病理標本等 情報：年齢、性別、身長、体重、血液検査結果、骨髄染色体検査結果、骨髄検査結果、骨髄フローサイトメトリー検査結果、病理組織検査結果等			
⑨ 研究の概要	<p>【目的】</p> <p>Mucosal-associated invariant T (MAIT)細胞は、ヒト末梢血T細胞の1-10%を占める細胞集団です。結核、自己免疫疾患、胆のうがん患者さんにおいてMAIT細胞数の変動が報告されており感染防御、免疫制御やがん免疫への関与が推測されていますが、その生理学的意義は未だ明らかにな</p>			

	<p>っていません。</p> <p>一部の血液疾患においても、末梢血 MAIT 細胞が減少しているという報告があり疾患発症への関与が考えられるため、MAIT 細胞の増減と疾患発症・増悪との相関を明らかにすることは、病気の理解や新規治療法の開発につながると考えられます。</p> <p>本研究は、血液疾患における MAIT 細胞の末梢血中/骨髄中の数と疾患発症の関係について調べ、また将来的には MAIT ターゲットとした治療法の開発を目指すものです。</p> <p>【方法】</p> <p>九州がんセンターと飯塚病院から患者さんの試料と情報を九州大学へ送付します。その後、九州大学において解析を行います。</p>		
⑩ 研究計画書等の 閲覧等	<p>研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手または閲覧できます。</p> <p>詳細な方法に関しては、以下の問い合わせ先にご連絡下さい。</p>		
⑪ 結果の公表	<p>学会や論文等で公表します。</p>		
⑫ 個人情報の保護	<p>結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。</p>		
⑬ 知的財産権	<p>九州大学、九州がんセンター、飯塚病院に帰属します。</p>		
⑭ 研究の資金源	<p>九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野の講座寄付金 特定企業からの資金援助はありません。</p>		
⑮ 利益相反	<p>ありません。</p>		
⑯ 問い合わせ先・ 相談窓口	<p>独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 血液内科 末廣陽子</p>		
	電話	092-541-3231	FAX 092-542-8503